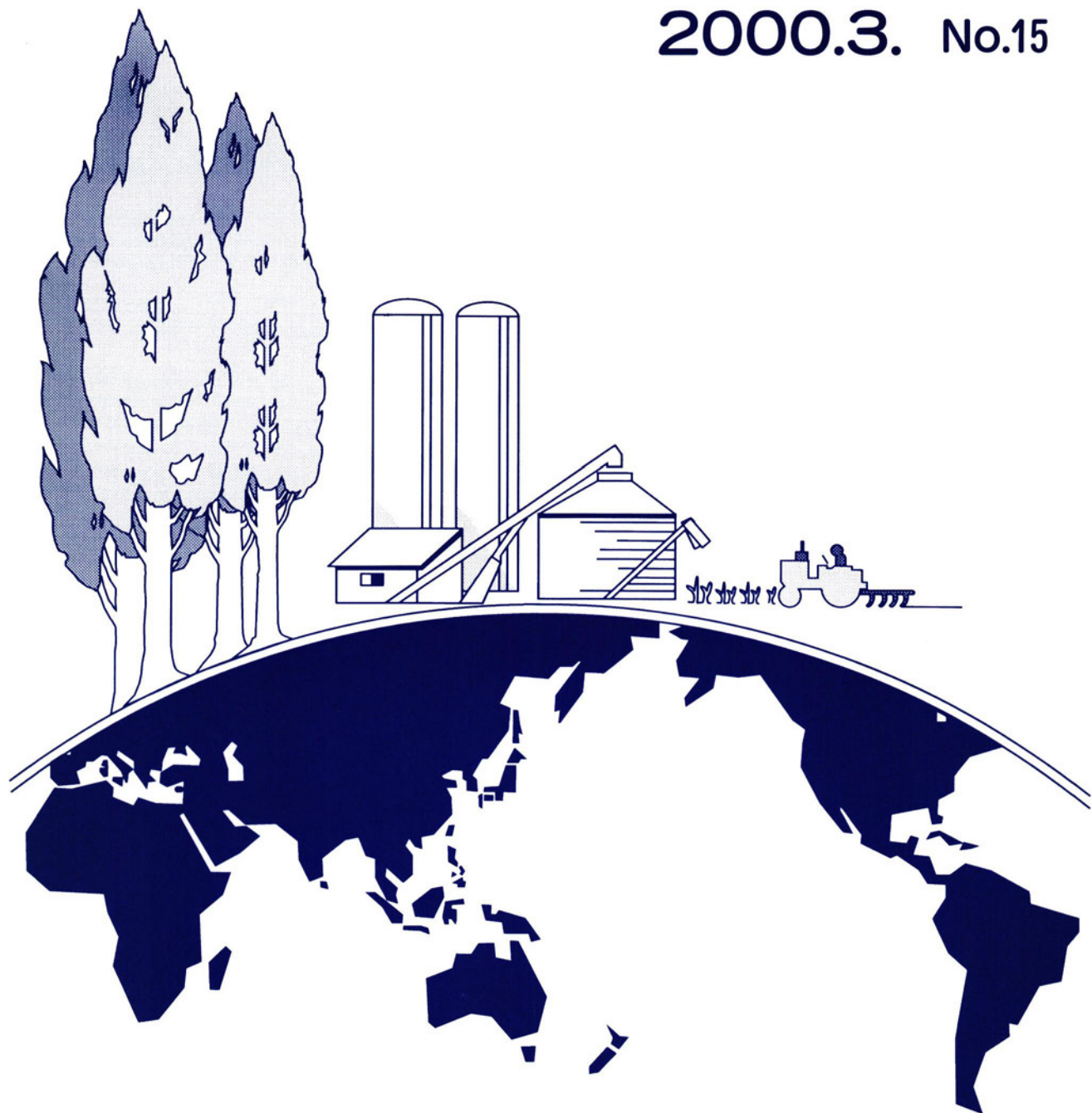


海外農業投資の眼

2000.3. No.15



社団法人 海外農業開発協会



95° E

ミャンマーの 「マングローブ」

学名：*Bruguiera gymnorhiza*

[ヒルギ科：RHIZOPHORACEAE]

英名：Red mangrove

ミャンマー名：Byu-u-talon

70年代以降のイラワジ・デルタ（約27万ha）は、開発の加速が原因でマングローブ林の減少がはなはだしい。政府は88年より数度にわたり住民の自家用以外の伐採を禁止する法を発令したが効果が現れないため、93年に軍隊の投入をもって点在炭窯を一掃した。

現在、一部地域では植生が回復しつつあるが、度重なる伐採により主幹のいたるところから枝が出たいじけた植生地区が目立つ。ミャンマーのマングローブ保護は、保護区の設定や植林事業がやっと緒に着いたところである。

（第一事業部 渡辺 哲）



◆ 焦点

- タイ国畜産分野での投融資事業の可能性 1
タイ国派遣JICA専門家 西村 博

◆ 日本企業へのメッセージ

- ニカラグアの農業政策と日本企業への期待 3
ニカラグア農牧林業省農牧林業政策局長 ロベルト・ベンダニャ

◆ 投資条件 DATA FILE

- 〔1〕 コスタリカ③ 9
〔2〕 中国広西壮族自治区 14
(社)海外農業開発協会第一事業部

- ◇ JICA開発投融資事業に係る活性化策の実施について 21
農林水産省 国際協力計画課

- ◇ 海外農業開発協会 (OADA) の民間支援活動 23

タイ国畜産分野での投融資事業の可能性

1. 牛産業の現状と問題点

タイ国では牧草の牛農家への普及が未だ十分でないこと、乾季における粗飼料不足（一番大きな不足は蛋白質不足）を稲藁と濃厚飼料給与で凌いでいること、牛の飼育管理（暑熱対策）の不十分なこと、適正品種（熱帯向きの乳牛）の普及が十分でないことが相俟って、乳牛は栄養不足から牛乳生産の低下、低受胎率の問題に直面するとともに、牛乳生産コストの高騰になっている。現在、生乳生産費（1997年）に占める飼料費の割合は55.9%と高率で、酪農経営を圧迫している。一方、肉牛では乾季に粗飼料の不足を補うための濃厚飼料の多給ができないため、低栄養、体重減少、低受胎率、肥育期間の長期化と言った問題が見られる。

従って、牛の生産性を改善するとともに飼料費の軽減を推進するためには、雨季のみではなく、乾季でも安価で良質な粗飼料を確保、給与することが急務となっている。

2. 牛飼育における優れた技術

上記のような大きな問題を抱えているタイ国ではあるが、全国に張り巡らされた畜産振興局の試験研究所での実用技術開発に向けた着実な研究の推進、農民の創意工夫・勤勉さ、畜産に使用できる自然資源の存在（飼料木、農産物残さの飼料利用、植物資源の畜舎材利用等）に支えられて、タイ国は東南アジアの中でも極めて優れた畜産技術を持っているように観察される。

それらの優れた技術の一端を紹介すると、農業副産物の飼料利用（トウモロコシ茎葉、パッショ

ン・フルーツの皮、バナナの皮、豆類の茎葉等）、飼料木の飼料利用、食品加工工場からの廃物である圧縮紙のドラム缶大の円柱筒、化学肥料の容器に使用されていたドラム缶大のプラスチック容器を使用したサイレージ作り、また、各種サイズ、形状のビニールバッグ、プラスチックシートを用いた安価なサイレージ調整、乾季に灌漑を導入したネピアグラスの年間青刈給与、雨量の多い南部でのアトラタム（熱帯稲科牧草）の20日間隔の青刈給与での搾乳牛飼育、ココナッツ樹園地下草としての牧草栽培での乳牛飼育、豆科牧草のサイレージ調整（通常豆科牧草のサイレージ調整は困難といわれている。）、飼料木であるルキーナの乾燥葉の生産（民間会社）、霧状にして吹き付けられる水の気化熱によって8℃下げられた蒸熱冷却乳牛舎、家畜糞尿を原料にしたバイオガス生産とその利用（家庭台所の調理燃料、照明燃料、脱穀機の燃料、発電機の燃料、肥料）等と熱帯自然資源を持っている国しか発想できない優れた技術の数々である。

3. 今後開発が求められている技術

上述したように優れた持続的畜産技術を開発してきているタイ国ではあるが、日本の持っている先端技術等の最新技術（ソーラー発電、風力発電等）と組み合わせた技術開発により、タイ国畜産部門の一層の発展が迅速に推進されるように思われる。また、その開発技術は同様な問題を抱える他の多くの熱帯諸国にも共通に必要な技術であることから、それら開発技術の販売市場は極めて大きいものと思われる。開発を急ぐ必要な分野には以下のようなものが考えられる。



タイ国派遣JICA専門家

西村 博

1) 乾季の飼料対策向けの雨季での牧乾草生産
(特に蛋白質含量の高い豆科牧草)

もし、現在タイ国で普及している家畜糞尿利用のバイオガス生産施設(ラチャブリ県にある1万頭規模の養豚農家では使用電気の全てを賄っている)と牧草乾燥施設を連結すれば、バイオガスを燃料とする発電機で生産される電気がビニールハウス内で自然加熱される牧草への送風動力源になる他、直接乾燥する火力乾燥機の燃料にもなるので、雨季に良質の牧乾草を大量に生産することが可能になる。

次に、ソーラー発電機を活用する牧草乾燥施設の開発では、太陽熱は熱帯地域に無料で無尽蔵に存在しており、また、その施設の普及性は極めて高いことから、ソーラー発電機を利用した乾燥機の開発も急務と思われる。この雨季での牧乾草生産技術開発が熱帯畜産の飼料部門での最大のニーズと思われる。

なお、実際の牧乾草生産においては日本の企業と合弁事業を組むタイ国の農協に乾草生産施設を作り、会員農家で生産された牧草を乾燥、圧縮、成型して出荷するシステムが好ましいように思われる。

次に豊富にあるキャッサバ葉が優れた飼料資源になることはタイ国での試験研究によって既に証明されているが、もし迅速かつ効率的に葉を収穫できる安価な機械が開発されれば、キャッサバ葉は大量に飼料に使用されるようになるであろう。キャッサバはタイ国で1997年に126.5万ha栽培されていたので、生葉は11.8万トン未利用資源の状態が存在していたことになる。

2) 乳牛の暑熱対策への安価な代替エネルギーの活用

乳牛は暑熱、体内で生産される熱によって、採食、牛乳生産、繁殖面に大きな影響を受けている。熱帯で生産性の高い酪農を行うには、いかに乳牛の体温上昇を抑え、適正体温帯に維持するかが重要であり、このため気温の高い日中に乳牛の体に水を定期的にかけて、風を送ったりすることが必要である。現在までの所、水をシャワーでかけて、同時に風を送ってやるのが最も効果的と考えられている。もし安い代替エネルギーを動力源にして乳牛に水のシャワー、送風を十分にやれるようにすれば乳牛の生産性は大幅に改善されることになる。

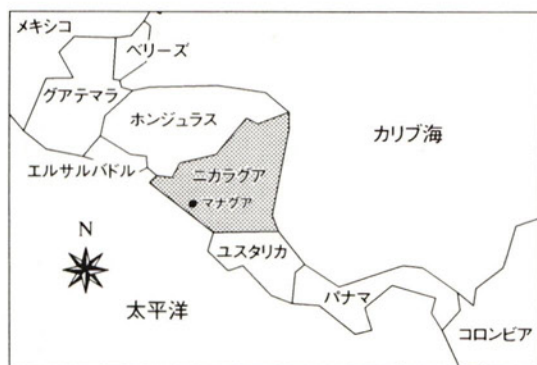
この他、安価な代替エネルギーを用いた畜産機器の開発(草地の飲水場への水の送水ポンプ、薬浴場での散水機、庇蔭施設への散水機等)も重要である。

3) 安価な代替エネルギーを活用した乾季の灌漑

安価な代替エネルギーを用いて、揚水、送水、散水できる灌漑が乾季に可能であれば、乾季に牧草を生産することが出来、特に酪農での飼料不足を大きく解消することが可能となる。なお、上述した安価な代替エネルギーとは、ソーラー発電、バイオガス発電、風力発電(タイ国中央部、南部で活用可能)のことである。

以上、タイ国の畜産部門での投融資事業の対象として可能性のあるものについて述べてみたが、少しでも参考になるものがあれば幸いである。

ニカラグアの農業政策と日本企業への期待 ～ベンダニャ農牧林業政策局長へのインタビュー～



国土面積	: 29,541km ²
人口	: 450万人 (1996年)
首都	: マナグア
宗教	: 主にカトリック教
公用語	: スペイン語
通貨	: コルドバ
(US\$1.00=12.4コルドバ/2000年2月)	
日本との時差	: -15時間

多くの日本人にとって中米地峡の中央部に位置する面積13万平方キロ（ほぼ北海道と九州を合わせた面積）、人口約450万のニカラグアは、馴染みの薄い国であろう。内戦の続く国というイメージを抱く方もいようが、実際は1990年に誕生したチャモロ政権下で内戦を終結し、自由経済政策に転換、現アレマン政権も同政策を引き継ぎ推進してきた結果、1998年のGDP成長率4%、99年は同推定6%と、好調な経済成長を遂げている。こうした経済成長は政治面での安定度の表れでもある。

産業は農林業が主幹になっていることから、輸出産品では、いくつもの農産品が上位を占めている。今回、同国農牧林業省のベンダニャ農牧林業政策局長の来日に際し、同国農林業の現状と外資導入策のうち、特に日本企業への期待度について聞いた。

(社) 海外農業開発協会

まず、今回の来日の目的からお聞かせください

今回、来日した直接の目的は、幕張メッセで開催されるFOODEXへの参加ですが、日本の市場を学ぶ機会であるとも考えております。アレマン大統領が政権について3年が過ぎました。現在の農林業大臣は現職についてから約半年ですが民間の果たす役割が大きいとの観点から、ニカラグアの農産物の新しい市場を探し、ジョイントベンチャーのパートナー

を求めています。今回も、大臣自身が訪日を望んでいたのですが、あいにく自らが議長を務める中米の農業大臣会議と重なってしまったため、私が代役を仰せつかったのです。

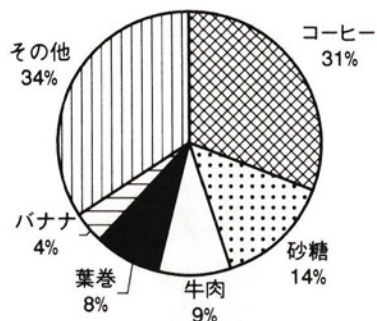
ニカラグアは、優良な港湾施設が太平洋側にあり、アジアの市場を非常に有望視しております。中でも日本の存在は欠かせません。長年にわたる日本のニカラグアへの援助には

深く感謝しています。これからは、貿易、投資が拡大推移をたどり、いっそうの友好関係が深まる方向へ向うようにと期待しています。

今日のニカラグアの農業は、より市場性の高いものを生産する方向へと変わりつつあります。そのためにも、今回の訪日で日本の市場が何を欲し、どの程度のレベルの品質を求めているのか等を掌握し、それを本国で活かせればと考えております。

主要輸出農産物（1997年）

品目	額(千ドル)
コーヒー	123,513
砂糖	54,341
牛肉	36,581
葉巻	31,176
バナナ	15,524
その他	138,865
合計	400,000



農業の特定の分野で外国企業に期待するところがありますか

私は、農業と林業両分野の政策を担当しています。まず、外資導入を積極的に進めようとしているのが林業です。ニカラグアには多くの土地が伐採されたまま放置されてますので、植林を積極的に進めていかなければなりません。植林された木は木材利用、パルプとして紙の原料にもなるのは勿論のこと、環境保全の観点からも重要です。私たちは京都議定書の実施にも積極的に取り組んできましたし、排出量取引きにも強い関心を抱いてます。

世界銀行も9百万ドルの3年間にわたるパイロットプロジェクトに着手しましたが、本格的なプロジェクトに関しては、現在、米州開発銀行とも折衝中です。このような公のプロジェクトに加え、この分野での民間投資の重要性を十分に認識しています。

また、ニカラグアの農業を語る上で、欠かせないのがコーヒーです。近隣諸国が効果的

なマーケティングを進めている間、私たちは内戦で苦しんでいましたから、ニカラグアのコーヒーは国際的にそれほど知名度は高くないかもしれませんが、品質面での自信と他の生産国に負けない経験を持ち合わせています。

畜産も有望です。良質な牛肉を生産する一方で養鶏も行なっています。実は、昨日東京で「焼き鳥」を見る機会を得たのですが、聞くところでは、メキシコ産ということでしたので、こうした分野でもニカラグア産の輸出の可能性について、調べてみたいと思っています。

野菜、果物も将来性があります。やはり、昨日、街で店頭に並ぶ多くの果物を目にしました。ニカラグアには、マンゴ、スイカ、メロンはじめ、オレンジ・その他柑橘類がふんだんにありますが、現状は自然に結実しているものを収穫しているだけです。この分野に

外資が入れば間違いなく、商業的な生産が可能になるものと確信しております。日本の民間部門が関心を示してくだされば、いつでも手を組めるのではないのでしょうか。

もう一つ、ニカラグアの経済システムで特

徴的なのは、外資の企業活動をオープンにしているという点です。事業実施に際し、ニカラグア企業の参加を必須条件としておらず、また、利益の持ち出しにも制限をつけておりません。



ペンダニャ局長（中央）、ボダン・シールズ駐日大使（右側）、聞き手は第二事業部鈴木隆裕（左側）

ニカラグアコーヒーの特徴を教えてください

特徴の第一は小規模生産でしょう。ニカラグアの多くの農場は乾燥までのプロセスを自分の農場で行っています。他の生産国の大半は、大規模生産で収穫果実は工場に集められ、そこで処理されますので、産地を特定することはできても、農場まで特定するのは不可能です。今後、消費者は、ますます産地に関する情報を求めるようになりましょうから、どの産地かを示すだけでは十分でなく、どの農場で収穫されたかまでが商品価値を左右す

る要因になっていくと予想されます。こうした傾向はニカラグアのコーヒー産業を発展させるうえで好都合といえます。

ニカラグアのコーヒーは、香り、風味、こく、酸味といった品質だけを追求するのではなく、環境的に高い品質、社会的に責任をもてる形でのコーヒー作りを目指しています。1980年代の内戦は、私たちの国に多くの被害をもたらしましたがそのなかで人的資本に対する社会的認識を深められたのは救いです。

内戦で多くの人材を失い、人的資本がいかに重要であるかの教訓を私達に与えてくれたからです。政府をはじめ、民間企業も人材育成に対する投資を積極的に進めており、コーヒーもこのような認識のもとで生産されています。

果実処理にともなう排水による河川の汚染防止にも努めています。コーヒー豆のパーチ

メント（内果皮）は、普通はそのまま燃料にしますが、ニカラグアではそれを固形化して燃料として使っています。非常に高いカロリーを持ち、薪の代替物としても有望視されています。また、コーヒーの外皮は堆肥にして農場で利用しています。環境的に見ても効率的な農場運営というのは、農場が小規模である方が実施しやすいのです。

1998年のハリケーン「ミッチ」でコーヒーが大きな被害を受けたと聞きましたが

ハリケーン「ミッチ」による被害は、土砂崩れによる農場への直接的な被害と、市場への道路が寸断されたために出荷が遅れ、コーヒーの品質を下げってしまったことの2点があげられます。幸い、道路の方は日本をはじめとする多くの国の援助で復旧しました。

コーヒー農家に対する復旧プログラムも進んでいます。その過程で、国連の一次産品共通基金の援助を受けながら、コーヒーの果実処理を、河川汚染をもたらないような水洗式に移行しつつあります。ハリケーンの被害からは、確実に復興しつつあります。

最後に、日本企業へのメッセージのようなものがあればお聞かせください

日本企業へのメッセージであるとともに、ニカラグアの農民へのメッセージでもあるのですが、先ほど言いましたように、新しいニカラグアの農業政策は、今まで作ってきたからという理由だけで同じものを作りつづける農民を、よりビジネス感覚を持った農民へと変えていくことにあります。市場が望むもの

を生産する、そのためには、市場についての知識がなければなりませんし、新しい技術も必要になります。日本企業の投資で、それらを得る可能性は限りなく高くなります。ニカラグアと日本の民間企業との関係が深まり、発展していくことを強く望んでおります。

*

ベンダニャ局長には、忙しいスケジュールの合間をぬって、ニカラグア大使館の協力を得て、インタビューの時間をいただいた。まだ30代の前半という若さにもかかわらず、既にいくつかの要職を経験しているという。若く有能な人材が政府内部で活躍する姿は、長い内戦を経て誕生した民主主義に基づく新しいニカラグアを象徴しているようであった。

ニカラグアデータベース

1. 経済事情 (1997年)

国内総生産 (GDP)	20億2,300万ドル
農林水産業生産額	6 億8,800万ドル
GDP対比	34.0%
GDP成長率	5.0%
消費者物価上昇率	7.3%
失業率	13.2%

2. 土地利用・農業人口

土地利用		
国土面積	1,214万 ha	100%
農用地面積	127万 ha	11%
耕地	110万 ha	
永年作物地	17万 ha	
永年牧草地	550万 ha	45%
森林	320万 ha	26%
その他	217万 ha	18%
灌漑面積	9 万 ha	
農業人口		
総人口	424万人	
農家人口	93万人	22%
就業人口	156万人	
農業就業人口	35万人	22%

3. 農林産物生産状況 (1998年)

品 目	生産量 (トン)
サトウキビ	3,842,540
トウモロコシ	295,500
コメ	212,097
ソルガム	111,100
コーヒー	64,000
果実類	245,300
バナナ	80,300
牛肉	50,830
鶏肉	35,650
丸太	3,874,000 m ³
用材丸太	228,000 m ³

4. 貿易収支 (1997年)

1. 輸出	
総輸出額	7 億ドル
農産物輸出額	4 億ドル
対総輸出額比	57.1%
2. 輸入	
総輸入額	14億ドル
農産物輸入額	2 億ドル
対総輸入額比	14.3%
3. 収支	
貿易収支	－ 7 億ドル
農産物貿易収支	2 億ドル

5. 主要農産物貿易 (1997年)

輸 出		輸 入	
品 目	額 (千ドル)	品 目	額 (千ドル)
コーヒー	123,513	コメ	34,385
砂糖	54,341	コムギ	14,534
牛肉	36,581	ダイズ油	12,889
葉巻	31,176	パーム油	12,083
バナナ	15,524	ジャガイモ	5,032

6. 日本の対ニカラグア貿易

単位：千ドル	1996	1997	1998(対前年比%)	
輸出 (FOB)				
総額(A)	42,626	49,357	80,401	(162.9)
農林水産物(B)			798	—
農産物			435	—
林産物			9	—
水産物			353	—
農林水産物のシェア(B/A)			1.0	—
輸入 (CIF)				
総額 (C)	5,959	7,621	5,100	(66.9)
農林水産物 (D)	3,894	7,555	5,015	(66.4)
農産物	801	4,200	1,834	(43.7)
林産物	—	9	—	—
水産物	3,093	3,346	3,181	(95.1)
農林水産物のシェア(D/C)	65.3	99.1	98.3	—
貿易収支				
全体 (A－C)	36,668	41,736	75,301	—
農林水産物 (B－D)	-3,894	-7,555	-4,217	—

D 投資案件 DATA FILE

(1) コスタリカ

③切り葉・観葉植物・切り花

(社)海外農業開発協会 第一事業部

◇◇非伝統的輸出農産物のリーダー

コスタリカ貿易振興会ホームページ

<http://www.procomer.com/>

観賞用、装飾用としての切り葉、観葉植物、切り花等の生産は、過去20～30年の間に新たな輸出産業として成長した。これらの生産・輸出は、牛肉、コーヒー、バナナ、砂糖などの伝統的輸出産品に依存する経済からの脱却を経済改革の旗印に掲げているコスタリカにあって、非伝統的輸出農産物拡大のリーダーとしての役割を果たしてきた。この間の輸出額でみた年平均成長率は16%で、現在、同分野の輸出総額は非伝統的輸出農産物の半分以上を占めている。

コスタリカの気候分布



出所：Algunos Aspectos Basicos Agrologicos de Costa Rica 1980

1999年1月～11月の輸出総額を98年同期と比較すると、工業部門の45.3%の増加が全体を引き上げて22.08%の増加となった。産業部門別ではエビ、魚等の大幅な減少によって畜水産業部門は-55.58%、農業部門もコーヒーの輸出減から-11.33%といずれもマイナス成長であった。

コーヒー、バナナといった伝統的輸出産品の輸出が停滞、減少する中で「切り葉」、「観葉植物」はそれぞれ5.4%、8.7%と増加しており、今後とも、非伝統的輸出農産物としての安定的成長が期待されている。

多様な気候帯下にあるコスタリカでは、多種・多品種の切り葉、観葉植物、切り花等の栽培が可能で、約180社の内・外資企業がこうした自然環境の恩恵を享受して事業を展開している。

◇切り葉

レザーファーンの生産、輸出が最も多い。近代的設備・施設（グリーンハウス）の導入、継続的市場調査、栽培技術の開発は、ヨーロッパ、日本等の先進市場に受け入れられる品質の商品を送り出してきている。他の切り葉としては、湿潤熱帯で生産されるヤシ類、多種のリュウゼツラン類、サトイモ科のアグラオネマ、ディフェンバキア、アンスリウム等がある。

主な輸出先は、アメリカ、ヨーロッパ、日本である。

◇観葉植物

「繁殖材料」と「完成品」の両方が輸出されている。コスタリカでもっともポピュラーな品種は、ドラセナ属のマルギナータ、ゴッドセフィアーナ、フラグランス、マッサンゲアーナ、ワーネッキー、ジャネットクレイグ等である。この他、コルディリネ、アグラオネマ、ユッカ、クロトン、ポトス等が緑の葉に独特の色合いを添えている。

主な輸出先は、日本、香港、台湾の他、アメリカ、EUである。

◇切り花

比較的歴史が長く、標高の高い地域で栽培される数品種のバラ、キクに重点が置かれている。カスミソウ、スターチス、アルストロメリアやジンジャー、ヘリコニア、アナナス、バショウといった多くの熱帯低地産の花の他、ストレリチア、アイリス、アンスリウム、アガパンサス、ランは各地で生産されている。

主な輸出先は、アメリカ、EU、カナダである。

部門別輸出額の伸び

単位：百万ドル

部門／品目	1998年		1999年	成長率 (%)
	1～12月	1～11月	1～11月	
農業	1,584.36	1,465.58	1,299.47	-11.33%
バナナ	632.35	570.92	559.68	-1.97%
コーヒー	409.40	383.21	277.21	-27.66%
パイナップル	110.73	103.23	117.82	14.14%
メロン	60.92	60.92	66.34	8.91%
植物の葉	55.17	51.77	54.57	5.40%
観葉植物等	50.34	46.90	50.98	8.70%
その他	265.45	248.64	172.87	-30.47%
畜水産業	350.34	336.65	149.55	-55.58%
魚（生鮮、冷蔵、冷凍）	48.27	44.69	26.07	-41.67%
魚（乾燥、塩蔵）	60.87	59.38		
エビ	61.50	58.81	41.00	-30.29%
牛肉	23.26	20.44	24.52	19.96%
魚肉	52.41	50.85	27.15	-46.60%
動物性生産品	31.89	31.85	0.36	-98.87%
その他	72.13	69.02	21.62	-68.68%
工業	3,581.18	3,233.37	4,698.19	45.30%
合計	5,515.88	5,035.60	6,147.21	22.08%

出所：PROCOMER

主な観賞用植物生産・輸出会社

社名	AGREX DEL NORTE		
住所	154-2120	E-Mail	agrexco@sol.racsa.co.cr
Fax	(506)256-6751	電話	(506)256-7467
社名	AGRICOLA AMATA		
住所	702-4050	E-Mail	
Fax	(506)442-1502	電話	(506)441-3750
社名	AGROEXPORTACIONES BW		
住所	78-3007	E-Mail	agroexp.@sol.racsa.co.cr
Fax	(506)7661-1038	電話	(506)1761-1122
社名	AGROPECUARIA HERMANOS PACHECO,S.R.L		
住所	74-43-01 ZARAGOZA DE PALMARES	E-Mail	aghnpa@sol.racsa.co.cr
Fax	(506)452-0459	電話	(506)453-2428
社名	ANTURIOS DE ALTURA		
住所	661-1000	E-Mail	
Fax	(506)234-0318	電話	(506)225-7458
社名	ANTURIOS DE GUAPILES		
住所	110-10-17 SAN JOSE	E-Mail	
Fax	(506)256-8451	電話	(506)256-8094
社名	CAM.NAC.DE PRODUCT.EXP DE PLN.ORNAMEN		
住所	12078-1000	E-Mail	
Fax	(506)224-5362	電話	(506)224-5362

11ページ続き

社名	COOPEINDIA	E-Mail	copindia@sol.racsa.co.cr
住所	25-4300 PALMARES	電話	(506)452-0811
Fax	(506)453-1211		
社名	EMPACADORA DE PLANTAS DE EXPORTACION	E-Mail	
住所	241-4050	電話	(506)260-4102
Fax	(506)238-0512		
社名	EMPACADORA DE PLANTAS DE EXPORTACION	E-Mail	
住所	241-4050	電話	(506)260-4102
Fax	(506)238-0512		
社名	EMPRESAS DE OSO CAFÉ	E-Mail	osocafe@sol.racsa.co.cr
住所	149-1150	電話	(506)296-5927
Fax	(506)296-5543		
社名	EMPRESAS OSO CAFÉ	E-Mail	osocafe@sol.racsa.co.cr
住所	149-1150	電話	(506)296-5927
Fax	(506)296-5543		
社名	EXPORTADORA IMPERIO VERDE	E-Mail	europian@sol.racsa.co.cr
住所	1910-4050	電話	(506)438-0404
Fax	(506)438-0405		
社名	FANTASIAS TROPICALES	E-Mail	cmrojas@sol.racsa.co.cr
住所	527-4005 SAN ANTONIO DE BELEN	電話	(506)293-1472
Fax	(506)293-1472		
社名	FLORES DE COSTA RICA INTERNACIONAL	E-Mail	florssr@sol.racsa.co.cr
住所	863-2050	電話	(506)233-891
Fax	(506)258-0014		
社名	FLORES TROPICALES DEL RIO	E-Mail	
住所	375-1007	電話	(506)265-5916
Fax	(506)265-591		
社名	FOLLAJES CLASICOS DE ATENAS	E-Mail	
住所	1535-4050	電話	(506)256-6563
Fax	(506)256-6187		
社名	FOLLAJES TICOS	E-Mail	arias@mail.icr.co.cr
住所	243-3000	電話	(506)237-7149
Fax	(506)237-2701		
社名	GEBEN S.A.	E-Mail	sarape@sol.racsa.co.cr
住所	175-1200	電話	(506)231-3253
Fax	(506)231-4759		
社名	HACIENDA JUNQUILLAL	E-Mail	carrez@sol.racsa.co.cr
住所	494-1150 LA URUCA	電話	(506)290-8456
Fax	(506)232-3094		
社名	HELECHOS DE CUERO S.A.	E-Mail	
住所	137-2300	電話	(506)234-9132
Fax	(506)231-9434		
社名	HELICONIAS DEL CARIBE	E-Mail	rostrata@sol.racsa.co.cr
住所	1516-1100 TIBAS	電話	(506)240-729
Fax	(506)240-729		
社名	INVERSIONES OCHENTA	E-Mail	
住所	2150-1000	電話	(506)268-5434
Fax	(506)268-8674		
社名	INVERSIONES PALMETO	E-Mail	
住所	121-4005	電話	(506)443-0200
Fax	(506)441-0321		
社名	L.L.ORNAMENTALES DE LA MONTANA	E-Mail	
住所	62-7052	電話	(506)573-7248
Fax	(506)573-7792		

12ページ続き

社名	LA CARAMBOLA	E-Mail	
住所	62-2015-ZAPOTE	電話	(506)283-828
Fax	(506)280-6810		
社名	LOS OSOS TROPICALES	E-Mail	
住所	4361-1000	電話	(506)255-1959
Fax	(506)223-4546		
社名	ORCHIMEX DE COSTA RICA	E-Mail	
住所	14-5550	電話	(506)661-2397
Fax	(506)381-3512		
社名	ORNAMENTALES DEL RIO	E-Mail	floresco@sol.racsa.co.cr
住所	154-2120	電話	(506)256-7853
Fax	(506)256-7853		
社名	PLANTAS LA BONITA	E-Mail	floresco@sol.racsa.co.cr
住所	154-2120	電話	(506)256-7447
Fax	(506)256-9681		
社名	PLANTAS VALLE VERDE	E-Mail	
住所	504-4050	電話	(506)487-7484
Fax	(506)487-7896		
社名	PLANTAS Y FLORES ORNAMENTALES GABH	E-Mail	
住所	1314-2100	電話	(506)224-158
Fax	(506)253-9610		
社名	RICA FERN	E-Mail	ricafern@sol.racsa.co.cr
住所	3-7052 P.I.Z.F.C	電話	(506)552-5656
Fax	(506)552-5858		
社名	RIO TAPEZCO	E-Mail	
住所	52-4350	電話	(506)231-4946
Fax	(506)232-7275		
社名	TICO VERDE,S.A.	E-Mail	ticover@sol.racsa.co.cr
住所	1919-4050	電話	(506)448-6868
Fax	(506)448-6715		
社名	TROPIC FERN	E-Mail	goodfern@bigfoot.com
住所	9-7052 P.I.Z.N	電話	(506)552-5757
Fax	(506)552-5858		
社名	TROPICAL GREENS	E-Mail	salgador@sol.racsa.co.cr
住所	8-5530-1000	電話	(506)257-1213
Fax	(506)222-1740		
社名	TROPICALES SANTERRE	E-Mail	flortrop@sol.racsa.co.cr
住所	1346-1000	電話	(506)256-4745
Fax	(560)256-6160		
社名	TROPICULTURA	E-Mail	tropicul@sol.racsa.co.cr
住所	224-1250	電話	(506)220-1285
Fax	(506)231-4575		
社名	TWYFORD LABORATORIO DE PLANTAS	E-Mail	maclean@sol.racsa.co.cr
住所	429-4005	電話	(506)438-0283
Fax	(506)438-0036		
社名	VERDE TROPICAL DE COSTA RICA	E-Mail	jacunama@sol.racsa.co.cr
住所	606-1250	電話	(506)223-1561
Fax	(506)221-3239		
社名	VIVERO CAPSA	E-Mail	vivcapsa@sol.racsa.co.cr
住所	789-1250	電話	(506)289-8860
Fax	(506)289-9023		
社名	VIVEROS SAN RAFAEL	E-Mail	vivsanra@sol.racsa.co.cr
住所	821-4050	電話	(506)441-1962
Fax	(506)441-3174		

出所：PROCORDER

(2) 中国広西壮族自治区

2000年3月、(社)海外農業開発協会が広西壮族自治区に現地調査団を派遣しており、外国資本の導入、民間合弁事業の設立などに携わる同自治区農業開発对外連絡弁公室の韋錫健副主任から同自治区の概況、合弁事業を計画する具体的案件などについて直接話を聴く機会を得ました。

農業開発对外連絡弁公室は国の産業振興政策、および外資導入政策を基礎に、下記4分野における118計画(総投資額112億8,400万ドル、うち外貨利用額66億100万ドル)の外資導入重点開発項目を絞り込みました。

「広西五大経済区重点招商項目表 1999年」

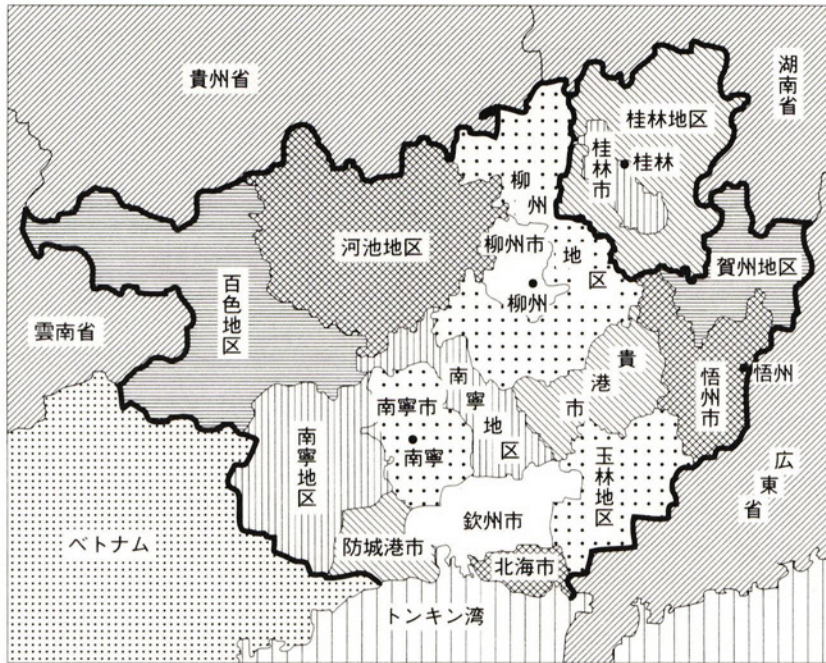
分 類	案件数 (件)	投資総額 (万US\$)	うち外資利用額 (万US\$)
基礎インフラ	14	220,523	94,781
農業・農産加工	27	131,319	49,366
工業	51	663,574	451,060
第三次産業	26	112,929	64,870
合 計	118	1,128,345	660,077

本項では、同副主任の見解も踏まえ、広西壮族自治区の基本概況、および「広西五大経済区重点招商項目表1999年」のうち農業分野に属する27案件のなかから水産養殖関係を除く21案件の骨子を掲載します。

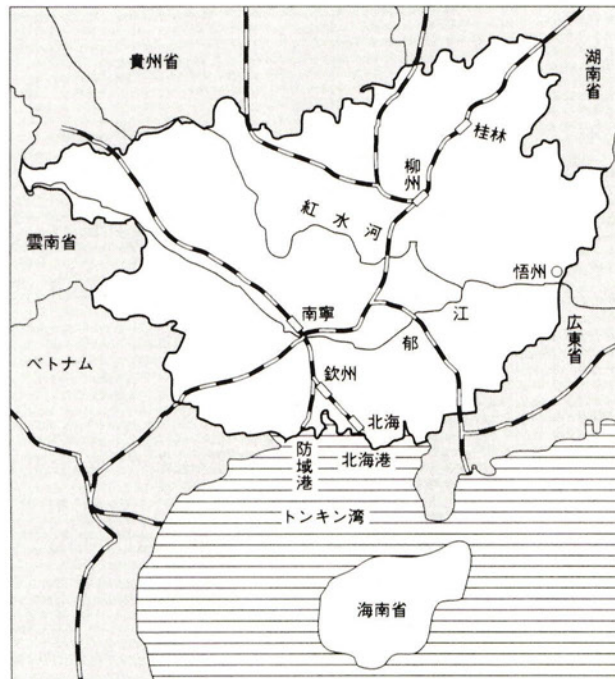
ご関心をお持ちの方は下記に連絡して下さい。投資案件に関しては、現地の「連絡先」に直接、連絡することも可能です。

連絡先 広西壮族自治区農業開発对外連絡弁公室
副主任 韋 錫健 (Wei Xi Jian)
+86-771-2800097, 2803490
+86-771-5855340, 2801616

行政区分図



河川・鉄道図



◇ 社会経済

1998年にみる同自治区の総生産は1,903億400万元、一人当たり平均は4,076元であった。総生産の内訳は、第一次産業が574億2,500万元、第二次産業が678億1,900万元、第三次産業が650億6,000万元である。農業部門の総生産額は865億9,000万元、工業部門は1,727億6,800万元、建築業部門は348億7,400万元である。

1998年の総人口は4,675万人（農業人口は3,816万人、非農業人口806万人）で、労働人口は3,086万人、そのうち就業者数は2,499万人である。農業就業人口は2,080万人で農民一人当たり純収入は2,048元である。

◇ 地理

同自治区は中国の南部に位置し、南西部はベトナムに隣接、南はトンキン湾に面し、北西部は雲貴高原の東南端にあたる。土地面積は24万km²で、うち山地が68.3%、平原と台地が29.7%、内水面が2%を占める。東部と南西部は山地が多く、北部、西部から中部にかけて大規模なカルスト地形が広がる。中部には左江盆地、南寧盆地、郁江盆地がある。

土地面積のうち耕地が11.05%、森林が34.37%を占める。開墾可能な荒地はまだ46万haあるといわれ、天然牧草地が600万haある。

郁江流域、紅水河下流域の平原は河川の沖積でできたもので、平均海拔は200m以下、土壌が肥沃なため同自治区の農業地帯でになっている。

◇ 気候

亜熱帯湿潤季節風気候区に属し、中部を北回帰線が横断している。冬の厳寒期がなく、年平均気温は北部は17℃、南部は22℃と温暖である。年平均の日照時間は1,600～1,800時間、年間降雨量は1,200～1,800mmで、国内では降雨量の最も多い省区の一つに数えられる。北部、中部地域の無霜期間は10～11ヵ月に達し、南部地域ではほとんど降霜がない。自然災害の中では、干ばつの影響が最も大きい。各地の気象状況は以下のとおり。

1996年各地区の気象状況

単位： 気温：℃、降雨量：mm

地区	平均気温	平均最高気温	平均最低気温	最高気温	最低気温	年降雨量
南寧地区	21.7	26.1	18.7	36.9	3.2	1,185.1
柳州地区	20.5	24.7	17.4	36.5	0.3	1,518.0
桂林地区	18.7	23.0	15.6	37.0	-1.0	2,106.4
梧州地区	20.6	25.8	16.8	36.7	0.5	1,591.5
玉林地区	21.4	26.0	18.0	35.5	1.9	1,490.2
百色地区	21.4	26.7	17.8	37.2	4.0	1,339.2
河池地区	20.3	24.7	17.3	38.1	1.9	1,690.3
欽州地区	21.9	25.8	18.8	37.1	2.4	2,033.3

出所：広西壮族自治区統計年鑑1997

◇ 農業

1999年の総農家数は894万戸、農業就業人口2,080万3,000人、農民一人当たり年平均準収入は2,048元である。食糧作物生産面積は約372万5,477ha（食糧作物総生産量は1,722万4,000トン）、うち水稻面積238万8,671ha、（同1,427万4,000トン）、トウモロコシ59万3,982ha（同178万8,000トン）、サトウキビ55万2,942ha（同3,220万トン）などである。

主要作物播種面積

単位：1,000ha

作物名	1990年	1995年	1997年	1998年
農作物総播種面積	5,141.3	5,745.7	6,203.0	6,293.4
食糧作物	3,639.9	3,662.7	3,738.5	3,757.7
水稻	2,543.7	2,433.0	2,445.9	2,433.5
早生	1,190.3	1,150.8	1,156.2	1,147.9
晩生	1,187.5	1,137.7	1,143.5	1,139.6
トウモロコシ	536.9	550.1	561.1	578.7
大豆	213.4	252.5	267.5	275.7
いも類	248.4	312.6	331.4	345.6
落花生	167.3	208.4	216.7	222.1
菜種	14.3	61.5	133.4	120.3
ゴマ	11.2	9.4	8.8	7.8
麻類	12.0	7.9	10.2	8.8
サトウキビ	319.9	454.3	549.3	614.0
タバコ	21.3	10.1	39.9	16.5
キャッサバ	219.4	272.9	273.3	260.5

主要作物生産量

単位：万トン

作物名	1990年	1995年	1997年	1998年
食糧作物	1,402.57	1,553.31	1,669.11	1,702.11
水稻	1,239.02	1,307.66	1,395.30	1,423.94
早生	655.71	699.25	742.21	720.85
晩生	516.70	536.72	578.69	626.81
トウモロコシ	118.75	155.47	166.12	168.14
大豆	13.56	28.97	32.46	32.33
いも類	24.88	49.68	60.15	63.94
落花生	24.20	45.35	42.35	42.44
菜種	0.52	39.17	12.30	11.31
ゴマ	0.35	5.34	0.59	0.51
麻類	2.26	1.47	2.43	1.74
サトウキビ	1,501.84	2,555.73	3,242.38	3,582.30
タバコ	2.97	1.24	6.69	2.36
キャッサバ	64.59	124.51	129.53	123.39

資料出所：広西壮族自治区統計年鑑1999

主要生産作物は、水稻（二期作）、トウモロコシ、ダイズ、イモ類、ラッカセイ、ナタネ、ゴマ、ジュート、サトウキビ、タバコ、キャッサバなど。経済林には油桐、八角、肉桂の他、ミカン、ザボン、バナナ、リュウガン、レイシ、マンゴーなどの果樹がある。

家畜の年末飼養頭数は、牛99万8,794頭、羊150万9,320頭、豚2,546万9,000頭である。

◇ 交通・運輸

交通網は、5鉄道、5空港に加え、道路が省都の南寧から放射状に発達している。内陸水路網はほぼ全域に及び、トンキン湾には1万トン級のバースを備えた港がある。

①鉄道

柳州が鉄道交通の中心になっている。湘桂線（湖南省衡陽～憑祥市友誼関：中越国境）はベトナムの鉄道と接続し、また南寧から北京・上海へつながる幹線鉄道がある。その他に黎湛（黎塘～広東省湛江）、黔桂（貴州省貴陽～柳州）、枝柳（湖北省枝城～柳州）、南防（南寧～防城港）、欽北（欽州～北海）、南昆（南寧～雲南省昆明）の各線がある。また、鉄鉱石や石炭運搬用の地方鉄道が7路線あり、玉梧線（玉林～梧州）が建設中である。

②道路

高速道路は桂柳高速（桂林～柳州）、柳南高速（柳州～南寧）、南北高速（南寧～北海）の3本があり、桂林～北海は1本の高速道路で結ばれている。

③水運 珠江水系の上流部に位置するため、自治区全体にわたって内陸航路が発達している。

貴港市と梧州市が川港として重要な位置を占めている。主要海港は北海港、防城港、欽州港である。

④空路

南寧、桂林、柳州、北海、梧州の5ヵ所に空港がある。国際線は南寧－ハノイ、南寧－バンコク、桂林－福岡に就航している。

◇ 外資導入

1999年に承認された外国企業投資は223件（合資が106件、合作が42件、独資が75件）で、総投資額は6億7,363万ドルであった。日本企業による投資は68件で、その投資額は1億8,000万ドルであった。

農業関連投資案件

1 ムー=667㎡、8.2元≒1 US\$

番号	プロジェクト名 生産品目／生産規模	投資金額(万ドル) 上段：投資総額 下段：外資要望額	新規・拡大	事業地	連絡先
1	亜熱帯性果実総合加工 レイシ、ライチ、バナナ等の果汁10万トン、果実パルプ5万トン、乾燥果実1万トン、施設面積9600㎡	4,217 2,100	新規	欽州市	広西名特優果品集团公司 0771-5862920
2	果実大型冷凍庫及交易センター レイシ、ライチ、バナナ、かんきつ類、スイカ等取扱い、3,000トン冷凍庫、年間取扱量20万トン、建設面積33,333㎡	1,220 664	新規	欽州市	欽州市果品特産開発公司 0777-2834769
3	近代的農業園 (3,000ムー) 花卉・無公害野菜：2,000ムー、淡水養殖：200ムー、娯楽施設：600ムー、建築面積35,000㎡	2,625 860	新規	南寧市 武鳴県	武鳴県伊嶺鎮政府 0771-6222379
4	山ブドウ酒 2,000トンから5,000トン／年へ拡大、加工設備、貯蔵室、原料貯蔵庫、製品倉庫	2,226 1,160	拡大	都安県	都安県山葡萄開発総公司 0778-5212322
5	イチヨウ栽培 新規植栽1万2,000ha、撫育3万6,000ha、銀杏8万5,000トン／年、葉6万5,000トン／年	25,000 18,000	新規	興安県 靈川県 等	興安県農業弁公室 0773-6222171
	イチヨウ産品開発 銀杏産品開発研究棟、銀杏飲料工場建設(20万トン)、フラボノイド抽出工場(30トン)	16,500 9,000	拡大	興安県	
6	竹植栽加工基地 孟宗竹新植：5万ムー、低生産性竹林改造：10万ムー、建材・食用竹林：10万ムー、竹木複合合板(3万㎡)工場建設、乾燥シナチク(3,000トン)工場建設	30,500 900	拡大	桂林市 所属12 県、工 場は桂 林市内 工業区	桂林市林業局・農業局、 各県林業局・農業局 0773-6222240
7	近代農業観光園 水稻・果実・野菜栽培。土地整備、道路敷設、植樹、休憩所、購買所、受入観光客：20万人	20,000 1,000	新規	興安県 大凸村 一帯	桂林市観光局、農業局、 水利局、農業機械局 0773-6222171
8	オレンジ生産基地 1.5万ムーの模範園	994 500	新規	富川県	富川県果実局 0774-7882249
9	玉桂基地 1.33万ムー (第1期：7,000ha、第2期：6,300ha)	1,300 637	新規	平南県	貴港市林業局 0775-4243430

番号	プロジェクト名 生産品目／生産規模	投資金額(万ドル) 上段：投資総額 下段：外資要望額	新規・拡大	事業地	連絡先
10	龍眼生産基地 1万ムーの植栽・管理	578 283	新規	桂平市 馬皮郷	桂平市果実弁公室 0775-3382046
11	柚子生産基地 1万ムーの植栽、電動灌漑ポンプ5基、貯 水池5カ所、水路40km	595 292	新規	容県	容県果実開発総公司 0775-5323482
12	甜竹タケノコ生産基地 新規・更新1,100ha、加工1,200トン／年、 事務所、職員宿舍、加工施設建設3,800 ㎡、輸送車、カッター、包装機器等	678 332	新規	陸川県	陸川県林場 0775-9020075
13	真空乾燥食品生産 新規建設施設14,000㎡、改修施設3,880 ㎡、原料果実30万トン、原料野菜25万ト ン、生産食品4,000トン／年	1,895 929	新規	北流市	北流市岳詒食品廠 0775-6227333
14	黒色食品生産（輸出）基地 2.2万トンから10万トン／年に拡大、ペー スト施設建設12,000㎡、スープ施設建設 5,000㎡	3,320 1,627	拡大	容県	広西黒五類食品集團公司 0775-5329888
15	ジャスミン茶加工工場建設 茶5,000トン、香料250トン	1,160 800	新規	横県	横県茶廠 0771-7223550
16	香料生産 八角茴油林7,000ha、天竺葵700ha、ハッカ 700ha、茴油1,000トン、茴香脳200トン、 薄荷1,150トン	1,200 500	拡大	徳保県	徳保県香料廠 0776-3822245
17	竹基地及び加工 1万ha、冷凍シナチク1万トン、岳詒 5,000トン、乾燥5,400トン、工場、倉庫、 設備等	1,421 1,000	拡大	田林県	田林県六隆鎮八渡笋總場 0776-7212604
18	果実加工 濃縮果汁(マンゴー2万トン、トケイソウ 1万5,000トン)、原料マンゴー20万トン	657 320	拡大	百色市	百色恒泰芒果産業有限公 司 0776-2995952
19	濃縮果実ジュース生産 熱帯・亜熱帯果実・野菜ジュース2万ト ン、果実ジュース10万トン	3,207 2,500	拡大	崇左県	崇左県果実加工廠 0771-7821722
20	新果実品種導入・模範・普及 植栽面積：5万ムー、導入品種：アメリ カのスモモ類	1,500 750	新規	柳城・ 柳江郊 外及び 市営農 場	柳州市水果生産弁公室 0772-2826654
21	花卉生産基地 占有面積684ムー、ビニールハウス、2,042 万個（鮮花、観葉植物、苗木、種苗、盆栽等）	1,381 795	新規	北海明 珠広場	北海金穗農業投資有限公 司 0779-2051896

JICA開発投融資事業に係る活性化策の実施について

農林水産省

国際協力計画課事業団班

TEL：03-3502-8111(内線2849)

1. 趣旨

- (1) JICA（国際協力事業団）開発投融資事業における担保措置については、従来銀行保証（銀行が連帯保証を行う）に限定していましたが、昨今の金融情勢の影響を受け、銀行保証の取付けができないために事業の申請を断念する事例が増えています。一方、銀行と同等以上の信用格付けを有する企業等も多く存在しています。
- (2) また、近年の民間企業の海外進出は、現下の経済情勢を反映して伸び悩んでおり、試験的な事業又は公共性の強い事業は、実施されにくい状況にあります。
- (3) このような状況下で民間企業の海外進出を促進するとともに本事業の活用を図っていくために、下記のとおり貸付条件の緩和を平成11年4月1日から実施しています。（別表参照）

2. 担保措置の緩和

従来融資に際しては、原則として銀行保証が必要でしたが、今般、保証人を銀行以外の企業等にも拡大しました。又、物的担保（国債等）のみによることも可能となりました。

3. 貸付条件の緩和

- (1) 最優遇金利（年0.75%）の事業規模枠が拡大されました。
 - (イ) 試験的事业：3億円以下 → 5億円以下
 - (ロ) 関連施設整備事業：20億円以下 → 30億円以下
- (2) 最優遇融資比率（100%）の適用枠が拡大されました。
 - (イ) 試験的事业：3億円以下 → 5億円以下
 - (ロ) 関連施設整備事業：4億円以下 → 7億円以下
- (3) 融資比率がアップされました。
 - (イ) 試験的事业：3億～15億円以下75% → 5億～20億円以下85%
 - (ロ) 関連施設整備事業：4億～30億円以下70% → 7億～45億円以下85%
- (4) 特別関連施設整備事業が新設されました。
 - ①施設整備後に相手国政府等へ無償で譲渡されるもの、②相手国政府等の所有する施設の改修事業、③環境保全型造林事業及び④環境負荷の軽減を図るための施設整備事業（当該国の環境基準を上回るもの）：45億円以下 融資比率100% 金利0.75%

国際協力事業団開発投融資事業貸付条件

平成11年4月1日

事業区分	事業規模	融資比率	融資限度額	金利	償還期限	据置期間	備 考
試験的事業	5億円以下	100%	5億円	0.75%	20年以内 ※1 (30年以内)	5年以内 ※1 (10年以内)	(1) 20億円を越える事業又は先進国で行う事業については、個別協議。
	5億円超～20億円以下	85% ※2 (100%)	17.75億円 ※2 (20億円)	2.5 ～3.5%			(2) ※1の条件は、基盤・造林及び環境保全型造林事業について適用。 (3) ※2の条件は、環境保全型造林事業について適用。
関連施設整備事業	一般	7億円以下	7億円	0.75%	20年以内	5年以内	(1) 45億円を超える事業については、個別協議。
		7億円超～30億円以下	26.55億円				(2) ※3の条件は、施設整備後に相手国政府等に無償で譲渡されるもの、相手国政府等の所有する施設の改修事業、環境保全型造林事業及び環境負荷の軽減を図るための施設整備（当該国の環境基準を上回るものに限る。）について適用。
		30億円超～45億円以下	39.3億円	2.0 ～3.5%			
	特別 ※3	45億円以下	45億円	0.75%	30年以内	10年以内	

(注) 環境保全型造林事業とは、途上国の緑の回復に資する目的で実施される事業です。

* 融資に際しては、本邦銀行やその他企業等の保証又は物的担保（本邦の国債等）が必要です。

海外農林業開発協力促進事業

(社)海外農業開発協会は昭和50年4月、我が国の開発途上国などにおける農業の開発協力を寄与することを目的として、農林水産省・外務省の認可により設立されました。

以来、当協会は、民間企業、政府および政府機関に協力し、情報の収集・分析、調査・研究、事業計画の策定、研修員の受入れなどの事業を積極的に進めております。

また、国際協力事業団をはじめとする政府機関の行う民間支援事業（調査、融資、専門家派遣、研修員受入れ）の農業部門については、会員を中心とする民間企業と政府機関とのパイプ役としての役割を果たしております。

海外農林業開発協力促進事業とは

多くの開発途上国では、農林業が重要な経済基盤の一つになっており、その分野の発展に協力する我が国の役割は大きいといえます。そのさい、当協会では経済的自立に必要な民間部門の発展を促すうえで、政府間ベースの開発援助に加え、我が国民間ベースによる農業開発協力の推進も欠かせないとの見地から、昭和62年度より農林水産省の補助事業として「海外農林業開発協力促進事業」を実施しております。

当補助事業は今日までの実施の過程で、開発途上国における農林産物の需要の多様化、高度化などを背景とする協力ニーズの変化および円滑な情報管理・提供に対応するための拡充を行い、現在は次の3部門を柱としております。

1. 優良案件発掘・形成事業（個別案件の形成）

農業開発ニーズなどが認められる開発途上国に事業計画、経営計画、栽培などの各分野の専門家で構成される調査団を派遣して技術的・経済的視点から開発事業の実施可能性を検討し、民間企業による農林業開発協力事業の発掘・形成を促進します。

民間ベースの開発途上国における農林業開発事業の企画・立案に関して、対象国の農林業開発、地域開発、外貨獲得、雇用創出、技術移転などの推進に寄与すると期待される場合、有望作物・適地の選定、事業計画の策定などに必要な現地調査を行います。

相談窓口

民間ベースの農林業投資を支援

2. 地域別民間農林業協力重点分野検討基礎調査（農業投資促進セミナーの開催）

農業投資の可能性が高いと見込まれる地域に調査団を派遣して、当該地域の農業事情、投資環境、社会経済情勢を把握・検討し、検討結果に基づく農業開発協力の重点分野をセミナーなどを通じて民間企業に提示します。

セミナーでは、農業投資を検討する上で必要となる基礎的情報とともに、現地政府関係機関および業界各方面から提出された合弁等希望案件を紹介します。

これまでに、①インドネシア、②ベトナム、③中国揚子江中下流域、④中国渤海湾沿岸地域、⑤中国揚子江上流域、⑥中国南部地域（雲南省、広西壮族自治区）、⑦中国北部地域（内蒙古自治区、寧夏回族自治区、甘肅省、新疆ウイグル自治区）を対象にセミナーを開催しました。

3. 海外農林業投資円滑化調査（情報の提供と民間企業参加による現地調査）

投資関連情報の整備・提供を行うとともに、主に海外事業活動経験の少ない企業などを対象に、関心の高い途上国へ調査団を派遣し、当該国の農業開発ニーズ、農業生産環境などを把握します。

業界の団体、あるいは関係企業などの要望に沿った現地調査を企画・立案し、協会職員が同行します（毎年度1回）。現地調査では、現地側の企業ニーズ、投資機関などの開発ニーズを把握するとともに、事業候補地の調査および現地関係者との意見交換などを行います。参加にあたっては、実費（航空賃、宿泊費、食費など）の負担が必要ですが、通訳・車両用上などの調査費用は協会が負担します。

また、本調査の結果概要をはじめとする投資関連情報を提供するため、季刊誌を発行しています。

（社）海外農業開発協会
第一事業部
TEL：03-3478-3509

農林水産省
国際協力計画課事業団班
TEL：03-3502-8111（内線2849）

海外農業投資の

眼

通巻第15号 2000年3月20日

発行／社団法人 海外農業開発協会 (OADA)

Overseas Agricultural Development Association

〒107-0052 東京都港区赤坂 8-10-32 アジア会館 3 F

○編集 第一事業部 TEL 03-3478-3509

FAX 03-3401-6048

E-mail oada@a1.mbn.or.jp

45° N

85° E



中国新疆ウイグル自治区の「ザクロ」

学名：*Punica granatum*

[ザクロ科：PUNICACEAE]

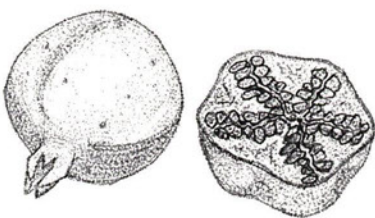
英名：Pomogranate

中国名：石榴

タクラマカン砂漠の西のはずれ、カシュガルの郊外、葉城県の果樹園で直径15cm程の大果品種のザクロを食した。同県は全国的に有名な産地の一つで、実の品質には定評があり北京でもお目にかかれる。古くから果皮、根皮が下痢止めや駆虫薬として効用のあることが知られていたが、最近では含有している女性ホルモン「エストロゲン」に各国の注目が集まっている。

県政府は砂漠の外れにイスラエル製の巨大なドリップ灌漑システムを導入し、ザクロ栽培に取り組み出した。カラコルム山脈の融雪水を中心に発達したオアシスで、今新しい農業が始まろうとしている。

(第一事業部 渡辺 哲)



OADA

Overseas

Agricultural

Development

Association